

2Ua-8 アメリカのCooperative Extention Serviceに関する研究

—コーネル大学における活動組織と役割について—

大阪樟蔭女大学芸 ○棟宏子 同 岩田三千子 大手前女短 大野治代

目的：本研究は、アメリカの州立大学が地域に提供する住情報サービス活動の実態について考察することを目的としている。本報では、コーネル大学のCooperative Extention Service（以下、CESと略す）を対象に事例調査を行い、その活動組織と役割について検討した。

方法：1993年9月にコーネル大学およびNew York City, Tompkin Countyの事務所を訪問、聞き取り調査を実施した。

結果：1) CESの活動は農務省、州立大学、地方自治体単位のCES事務所の連携により推進されている。2) 農務省では全国的な視野から、共通する現在の生活問題を基本プログラムというかたちで各CESに提示する。3) 州立大学では、基本プログラムを基軸としながら地域の実情に基づいた独自の研究を推進し、それを教育プログラムに反映する。州立大学は各郡におかれた事務所の専門職員に対し、新しい知見に基づいた専門教育を行い、指導する責任を負っている。実際に住民の教育にあたるのは、地方自治体単位のCES事務所で、住民への教育効果は専門職員の資質に関わるため、たえず、そうした内部教育がなされているのである。4) CES事務所の専門職員は、関心ある住民をボランティアとして活用し、また、多くの公的・私的組織と協力することによって教育効果をあげている。5) CESでとりあげられるプログラムの内容は、社会の変化や住民のニーズに応じて柔軟に対応できるシステムがとられている。特に、大都市では移民が多く、異文化への理解と外国語の教育プログラムと刊行物・情報のニーズが増大し、スタッフには、スペイン語、中国語、朝鮮語など外国語が話せる人の需要がふえている。